【資料紹介】

大坂城跡から出土した「さし・ます・はかり」

１．はじめに

大阪市中央区に所在する大坂城跡は、豊臣秀吉が石山本願寺の跡地に築いた城である。大阪夏の陣で豊臣氏が滅亡し落城した後は、徳川氏の命により再建されたが、徳川時代の大坂城は、豊臣時代の石垣や堀を埋めて築造されている。現在の天守閣は昭和６年に再建されたもので、平成９年には国の登録有形文化財となっている。

大阪府教育委員会は、1986年、1988年から1992年にかけて、府立大手前高校（調査地点１）やドーンセンター（調査地点２）建設に伴い大坂城三の丸跡の発掘調査を実施してきた。調査の結果、大坂城が築造される前に存在した石山本願寺の時代、豊臣氏の時代、徳川時代各時期の建物跡などが検出できた。豊臣氏の時代の遺構や遺物は、大坂城築造開始（1583）から三の丸築造開始（1598）までの豊臣前期と、豊臣秀頼が大坂城に移った（1599）から大阪夏の陣で豊臣大坂城落城（1615）までの豊臣後期に分かれる。

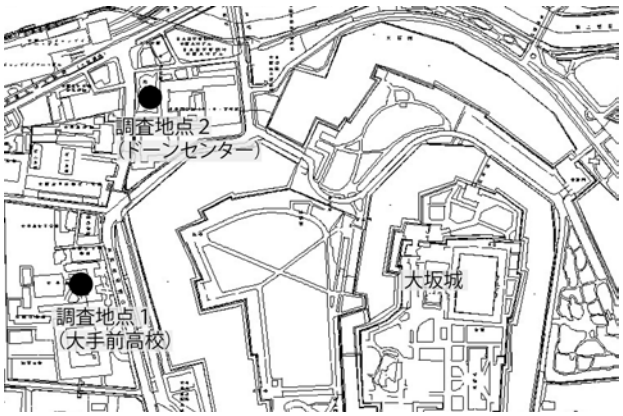

図55　大坂城跡の調査地点

各時期で瓦・土器・陶磁器・木製品・金属製品などの大量の遺物が出土しているが、ここではこれまで未報告になっていた計量関係遺物をとりあげ、紹介する。

２．ものさし

図56の４点のものさしは、ドーンセンター建設に伴う発掘調査において、豊臣前期の土層から発見されたものである。上段の２点のものさしは、１寸の目盛りが3.1㎝前後の間隔で刻まれており、１寸の間を２等分した５分の目盛りも短く刻まれている。２点とも両端は欠損しており、左側のものさしは幅約2.3㎝、残存長は９㎝、右側のものさしは幅約2.5㎝、残存長は11㎝を測る。ものさしの中央部分には「×」印が刻まれており、「×」印と５分の刻みには墨が塗られている。

中段のものさしは、１寸の目盛りが3.7㎝前後の間隔で刻まれている呉服尺である。呉服尺の１寸は、基準の１寸の長さである3.1㎝を1.2倍した3.7㎝前後で刻まれている。写真の呉服尺は５分の目盛りも刻まれており、目盛りの部分はすべて墨が塗られている。残存長は15㎝、幅は1.8㎝前後を測る。

下段のものさしは、１寸の目盛りが4.3㎝前後の間隔で片面のみに刻まれてる。この間隔は基準の１寸の長さ（表目）である3.1㎝を$\sqrt{2}$倍、すなわち1.414倍した裏目の間隔で、このものさしは片面に裏目のみが刻まれている裏尺である。一般的には、曲尺のように表目と裏目はものさしの両面に刻まれているが、図54の裏尺は片面に裏目のみを記した珍しいものさしといえる。

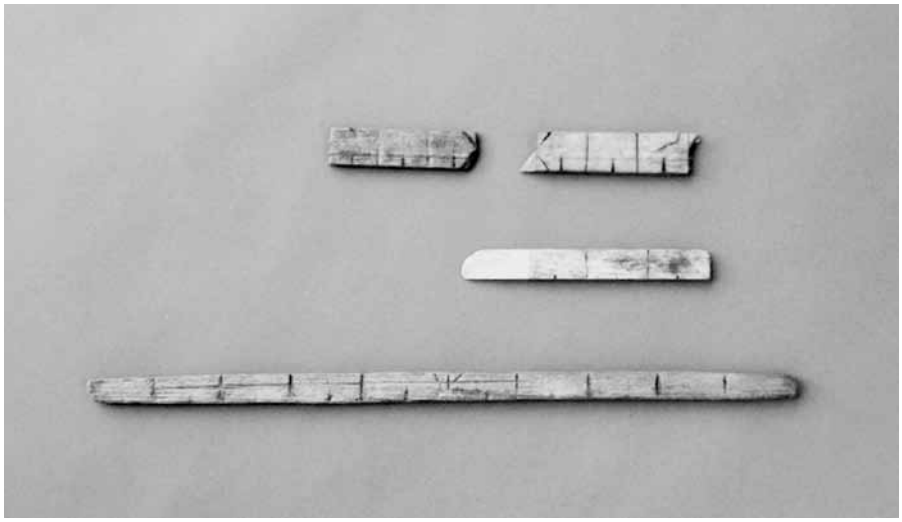

図56　ものさし
中段は呉服尺
下段は裏尺

３．京枡

図57の枡は、ドーンセンター建設に伴う大坂城三の丸跡の発掘調査で豊臣前期の土層から出土した。出土した時は、数枚の木片で荷物につける札と思われていたが、その後詳しい調査をした結果、バラバラになった枡と判明した。改めて大きさを測ってみると、縦15.3㎝、横15.4㎝、深さ7.3㎝で、この枡は豊臣秀吉が太閤検地をおこなった時に、年貢米などを量るための基準の枡とした京枡であることがあきらかになった。現在の一升枡の容量約1804㎤よりやや小さい1708㎤になる。

図57　京枡

図58　京枡の外面の底

図59　京枡の内面の底

この京枡は口金も一部残っており、図58でわかるように外面の底には「きのとの　孫三郎　とり」の彫刻があり、内面の底と側面の三か所に「豊」の字を○で囲んだ焼印などがある。「きのとのとり」は干支（えと）により年をあらわしたもので、天正十三年、すなわち西暦1585年に該当し、この京枡が作られた年と考えられる。「孫三郎」は枡の持ち主か製作者で、「豊」の文字の焼印は豊臣家による規格の保証を示したものであろう。おなじような京枡に、兵庫県姫路市の旧家に所蔵品で、天正十八年の墨書がある京枡がある。しかし大坂城三の丸跡から出土した京枡の製作年は天正十八年よりも５年古い天正十三年と考えられ、豊臣時代で最古の京枡であり、太閤検地の基準枡の原型といえる大変貴重な出土資料といえる。

４．秤関係遺物

重さを量る道具には天秤と棹秤があるが、ここでは天秤に関連する遺物として分銅を紹介したい。図60は大手前高校の建替えに伴う発掘調査で出土した太鼓形分銅である。分銅が出土したのはこの地が城下町であった豊臣前期の土坑である。この土坑は商人の屋敷地のごみ穴と考えられている。最大腹径6.9㎝、厚み3.6㎝、重さ1146.1ｇを測り、表面に「参兩」と刻まれている。このような太鼓形の分銅は徳川時代になると統制されて使用されなくなり、発掘調査による出土例は少なく、希少な資料といえよう。

５．おわりに

紹介したものさし・京枡・分銅は、すべて大坂城三の丸が築造される以前の豊臣前期の資料である。いずれも年代を絞り込める資料であり、計量史上においても重要な価値をもつものと思われる。

（藤田道子）

図60　太鼓形分銅